

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190300067		
法人名	株式会社ハッピーエンドギフト		
事業所名	グループホーム白梅華苑 みの 桃の香		
所在地	岐阜県美濃市もみじが丘2-45		
自己評価作成日	令和6年12月23日	評価結果市町村受理日	令和7年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190300067-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和7年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場にたったサービスの提供に努めるとともに、個別の介護計画を作成することにより、利用者が必要とする適切なサービスを提供する。
 介助するという姿勢ではなく、そっと見守る、気がつけば側にいて寄り添う、歩幅を合わせ同じスピードで歩いていき、無垢な笑顔が溢れた生活を共に行う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは静かな住宅街の中に位置し、温かみのある木造建築が特徴で、時間がゆっくりと流れる、落ち着いた雰囲気を持っている。地域の方達が、散歩がてら気軽にホームを訪問する等、自然と地域交流が生まれる環境がある。地域の老人クラブからは、「関わりを持ちたい」と申し出があり、見学会等を行い、ホームの様子を知ってもらい、今後の交流について考えるきっかけを作っている。
 利用者一人ひとりの「思い」を大切にすることを、職員の共通認識とし、日々の支援を実践している。利用者が「今やりたいこと」に着目し、利用者自らが、自身の「思い」や「意向」、希望実現を果たせる機会の提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「居心地の良い雰囲気づくり～その人一人一人を大切に」を理解し利用者の家だという意識を持ち支援を行っている。	運営法人移行から2年が経過している。職員も定着し、理念共有も徐々に浸透している。職員間の良好な人間関係、チームワークの良さが、事業所理念である「居心地の良い雰囲気づくり」に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの慰問、地域の保育園、小学校などとの交流がある。	近隣地域は若い世代が多く暮らし、子どもとの世代間交流ができる環境にある。七夕やクリスマスなどのイベント時には子どもたちの訪問があり、賑やかな時間を過ごしている。レクリエーションボランティアの受け入れも行い、地域との関わりを持つ機会を多く作っている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状、評価への取り組み、目標達成計画についての状況報告を行い、話し合っている。	民生委員や地域包括支援センターの参加があり、地域の情報や、課題などについて情報共有している。地域のグループホーム管理者の出席もあり、意見交換の機会としても活用している。会議は、ホームの取り組みの評価や課題を発見し、改善へつなげるきっかけとなっている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加時、状況報告を行い、意見等聞いている。また、市の行う会議、研修等に参加し相談などしている。	市の担当者とは、ホーム運営にかかわる報告のほか、ホームの困りごと等も相談できる良好な関係性がある。地域連絡会議や地域包括支援センター主催の会議・研修等に参加し、地域福祉向上への取組みに協力している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの本質、起こりうる弊害について、事業所内で研修を行い理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会や身体拘束の研修等を継続し、不適切ケアの慣れを防ぎ、日常業務のモチベーションを維持している。チェックリストを活用し、支援の振り返り・再確認を行い、身体拘束をしないケアを実践している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修を行い、日々のケアの中で虐待になりうることにについて話し合い、理解を深めながら日々虐待が見過ごされることがないように努めている。	虐待に繋がる可能性のある不適切ケア等、職員間で気付き、話し合える環境がある。管理者は、職員のストレスから生じる不適切ケア防止を考え、公私共に職員の話聞く機会を作り、ストレス軽減に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修に参加し、理解を深め、必要時など活用できるよう支援していきたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間をとり説明をし納得・理解をしていただけるよう努めている。不安や疑問点など話しやすい環境づくりに配慮している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見、相談、要望など話しやすいよう努めている。面会時に意見交換を行い、それらを会社全体で話し合っている。	SNSを活用し、随時に家族と連絡を取り合い、ホームからの連絡だけでなく、家族からの発信もしやすいように工夫している。また、家族がホームでの生活状況を把握できるように、定期的な情報発信に努め、意見や意向を出しやすい環境に配慮している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個々の話を聞いたり定期的に行う事業所会議での意見交換をし、職員全員で話し合い検討し取り組んでいる。	管理者は、職員全員がホーム運営にかかわる事を意識し、職員会議等の話し合いだけでなく、日常的に職員の意見を吸い上げている。法人本部から、社長や常務が来訪し、職員と直接話す機会もある。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	管理者・マネージャーが職員個々の実績や勤務状況を把握しながら、職場の雰囲気、不満などがあれば話を聞き職場環境の整備に努めている。	職員の年齢や家庭環境等、それぞれの事情に配慮し、就業条件等を柔軟に対応している。個別面談実施で、個人の状況や事情、意見や提案、意向等を把握し、それぞれに合った働きやすい就業環境提供に努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者と管理者、管理者と職員、相談等をしやすい環境づくりに努め日々の成長に努めている。希望する研修等への参加ができるよう配慮している。	資格取得に向けた費用補助の制度があり、正職員だけでなくパート職員にも、幅広く資格取得を推奨している。資格取得の環境整備が、職員の自己啓発やモチベーションアップに繋がっている。また、年間研修計画に沿い、ホーム内対面研修を実施し、教授する側・される側、双方向で学ぶ相乗効果を重視している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議へ参加し交流、情報交換を行っている。市のネットワーク会議等にも参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常日頃より入居者を家族と思って接するよう指導、教育している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の本人の行動や、会話や介助する際の表情などを観察しながら、してほしいこと、嫌なこと等を把握していく。他入居様からの情報なども参考にさせていただいている。職員間での情報共有に努めている。	職員は、利用者との日常の関わりの中で、本人が発した「思い」を介護記録に残し、申し送りや会議等で情報を共有している。家族からは、入居前の様子、生活歴等を聞き、「思い」を引き出す参考になっている。本人の思いや意向は、介護計画に反映している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングし、会議にて職員全員で再モニタリングし、それを介護計画に反映させている。	介護計画は半年毎の支援内容見直しを基本にしている。アセスメントの再実行、家族意見・意向の聞き取りを併せて行っている。モニタリングは3ヶ月毎に実施し、記録、集約した職員意見等をもとに、短期目標の達成状況を評価・検証している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの項目を簡素化した用紙とケアプランをはさんだファイルを介護記録を記入する機の隣におき目を通すことでプランに沿った記録ができるように努めている。	小さな出来事や利用者がささやいた「思い」も、介護記録や支援経過記録に残し、必要に応じ、担当者会議等で検討している。詳細記録の蓄積から様々な気づきが生まれ、介護計画へ反映させている。	記録内容のばらつきを減らすため、記録方法の勉強会等の機会を設け、適切な記録とする取り組みが期待される。
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが出た場合は管理者へ報告し実践できるかを職員間で話し合いをする。理事長や施設長に確認を取りながら取り入れられるように努めている。	利用者のモチベーションアップを狙い、家事手伝いや脳トレ等にコイン獲得の楽しみを作り、獲得したコインを、法人内のイベントで使える仕組みがある。家族訪問時に、併設デイサービスのリラクゼーション器具で、一緒に癒しの時間を過ごしてもらうこともある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族での受診介助の際に必要な介護タクシーなど移送サービスの提案をさせていただいている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による定期的な往診と必要に応じて他の希望した医療機関への紹介を行い、家族の協力を得て受診していただいている。	入居前のかかりつけ医を継続することができ、ホームでの看取りを考えている場合など、それぞれの状況に合った主治医を選択ができる。専門外来を受診する際には、家族と情報共有して適切な医療を受けられるよう努めている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを提供し、また退院時には看護師・ケースワーカーとカンファレンスを行ったり、看護サマリーを提供してもらうなどして連携をとっている。	利用者の入院時は、定期的に医療機関を訪問し、状況を把握するよう努めている。入院中のADL低下防止を考え、家族・医療機関と連携しながら、早期退院に向けて準備を行っている。退院前カンファレンスに参加し、退院後の受け入れ態勢を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化対応の指針を説明し同意を得ており、看取りを希望する方には主治医も選択してもらっている。	入居契約時に、重度化にかかわるホーム対応の指針と、ホームでできる事、できないことを明確に説明し、同意を得ている。本人の状態変化の都度家族と話し合いを重ね、家族の意向を確認した上で、その後の方針を決定している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の連絡マニュアルを作り、緊急搬送時に医療機関に利用者の情報を記入した用紙を準備している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPIに基づき、年2回の防災訓練を行い、避難経路の確認、消火器の使い方の練習を行っている。 地域との協力体制は協力を得るまでは至っていない。	定期で実施する年2回の訓練は、併設のデイサービスと合同で行い、その都度、協力体制を確認している。有事に備え、日頃からデイサービス職員との関係を密にし、利用者との関係性を強化している。BCPの策定・周知を行い、想定には万全を期し、有事に備えている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護従事者と利用者という姿勢ではなく、一人の人として向き合う姿勢を持ち、その人のありのままを受け止めるよう心がけている。プライバシー等の会話については配慮している。	職員会議等で、利用者の尊厳やプライバシーへの配慮について話し合い、認識と意識の統一を図っている。利用者本人が、これまで大切にしてきた、その人の「生き方」を尊重し、個人の尊厳を守る支援を実践している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	尊敬の本質の理解を深め、「どうしたいですか?」「どちらにしますか?」という問いかけを行うように心がけている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護従事者の都合や業務を優先するのではなく、利用者の目線になり、穏やかな日々を送れるように努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい料理の聞き取りや、野菜の皮むき、味見などをしてもらったりと利用者個々のできることを一緒に行っている。洗い物も出来る人に交代でしてもらっている。	調理師が、利用者の希望を聞き、献立に反映している。個人の嗜好の配慮、旬の食材の提供等、食の楽しみの支援は充実している。食材の下ごしらえ等、得意な利用者が参加し、職員と一緒に活動している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックを行い、管理をしている。食事以外に午前、午後水分補給を行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人に合わせた口腔ケアを毎食後に行い、口腔内の状態を観察しながら清潔保持に努めている。毎日義歯洗浄剤を使用している。	毎食後の歯磨き等、口腔ケアの実施で、口腔内の清潔保持に努めている。自身で歯磨きをする利用者も、職員が最終チェックを行い、磨き残しの有無などを確認している。義歯を自己管理をする場合も、さりげなく職員が介入し、清潔を保てるように配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄時間等の把握に努め、失禁する前にトイレでの排泄ができるよう個々の状態にあわせ尊厳を守った支援を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日や時間など、本人の自己決定を第一とした入浴支援をしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前からの生活習慣を考慮し、個々のペースで過ごしていただいている。使い慣れた寝具を持参していただき使用している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服用する薬の一覧表を作成して薬報は全入居者分をまとめてファイルしてあり、それぞれ、いつでも確認できるようになっている。服薬による副作用、服薬中止時の変化など、様子観察を行い、主治医に報告している。	落薬・誤薬等の発生時には、会議で話し合い、原因の検証・分析を行うとともに、今後の対策について検討し、改善している。手順書の整備を進め、適切な服薬支援の業務改善を行っている。薬の追加・変更に関しては、申し送りノート等で共有・周知を徹底している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、それぞれに役割などを持っていただいたり、お互いに支えあいながら生活をしている。併設しているデイサービスのレクリエーション等の参加やホームで好みに沿ったレクをおこなう。	友人と一緒に喫茶店に行ったり、家族と外食を楽しんだり、ホーム内ではできない楽しみごとを継続できるように支援している。また、利用者が、玄関先のプランターの植物の水やりを日課にしたり、得意な家事を分担したり、生活の中の役割りが、張り合いになるように支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶店や買物等、出来る人には声かけして一緒に出掛けしている。	外出後には、外出先での楽しかった思い出話に花を咲かせ、利用者の外出意欲向上に繋げている。ホームでは、日常の戸外活動と併せ、行事外出等、楽しい外出の演出を大切にしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る人にはお金を渡し、買物時にセルフレジ等で自分で会計してもらっている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望時電話ができるよう配慮したり、年賀状を出していただいたり、手紙のやり取りの支援をしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の清掃、室温管理を行い、利用者が不快な思いをしないよう居心地の良い環境整備に努めている。季節感を出すため壁面等は季節に合わせた飾り付け等を行っている。	天井が高く、木材を多く使った建物からは、独特の温かみを感じることができる。美濃市という土地柄、馴染みのある和紙を使った物を飾る等、落ち着いた雰囲気演出している。定期的な換気や、加湿器を使った温湿度管理、清潔保持も併せ、快適な生活空間整備がある。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	過ごしやすいソファを置いている。気の合う者同士の居場所の確保など配慮している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具、思い入れのあるものや写真等を持参していただき、居心地の良い環境づくりに努めている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内バリアフリーな環境のもと、個々のペースで自己にてできることをしていただき、穏やかに過ごしていただいている。家庭的ではなく家になるよう努めている。		